

岐阜県における自殺の現状

1 特徴

統計データから見る本県の特徴は次のとおりです。

- 令和元（2019）年の自殺者数は317人、自殺死亡率は16.3であり前年より減少しています。
- 男女別の年次推移では、どの年も男女の比率は男性が7割弱で推移しています。令和元年は男性の死亡数は前年より減少していますが女性は増加しています。
- 本県の令和元年の自殺死亡率は16.3で、全国15.7を上回っており、高い方からの順位で22位となり前年の17位から改善しています。
- 年齢階級別の自殺死亡率の年次推移は概ね減少傾向ですが、10代は横ばいが続いており、20代・30代・40代・50代も近年横ばいの傾向にあります。
- 二次医療圏別の自殺死亡率は地域差があります。
男性は、西濃医療圏・飛騨医療圏の50代で高くなっており、20歳未満では、西濃医療圏・東濃医療圏で高くなっています。
女性は、東濃医療圏の20歳未満、岐阜医療圏の20歳未満～40歳代で高く、50歳代では東濃医療圏・飛騨医療圏で高くなっています。
- 令和元年の年齢階級別の死因順位は、15歳～39歳の第1位が自殺であり、40代～60代の年代で第2位～第5位に自殺があります。
男性は、15歳～39歳の第1位であり、40歳～54歳で第2位、55歳～64歳で第4位となっています。
女性は、20～24歳の第1位、15歳～19歳、25歳～49歳の第2位、50代では第4位、第5位となっています。
- 自殺者における未遂歴は、男性女性とも未遂歴なしで亡くなる方が多くなっています。
- 原因・動機別、職業別・同居の有無別では、「健康問題」が最も多く、次に「経済・生活問題」「家庭問題」「勤務問題」であり全国と同様の傾向にあります。
職業別・同居人の有無別では、男性は被雇用者・勤め人、年金等の同居人ありが多く、女性は年金等、主婦、被雇用者・勤め人の同居人ありが多くなっています。

【参考】

厚生労働省「人口動態統計」と警察庁「自殺統計」の違い（厚生労働省令和2年版自殺対策白書より）

1 日本における外国人の取扱いの差異

「自殺統計」は、日本における日本人及び日本における外国人の自殺者数としているのに対し、「人口動態統計」は日本における日本人のみを自殺者数としています。

2 調査時点の差異

「自殺統計」は、捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上しているのに対し、「人口動態統計」は自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明の時は原因不明の死亡等で処理しており、後日原因が判明し、死亡診断書等の作成者から自殺の旨訂正報告があった場合には、遡って自殺に計上しています。

3 計上地点の差異

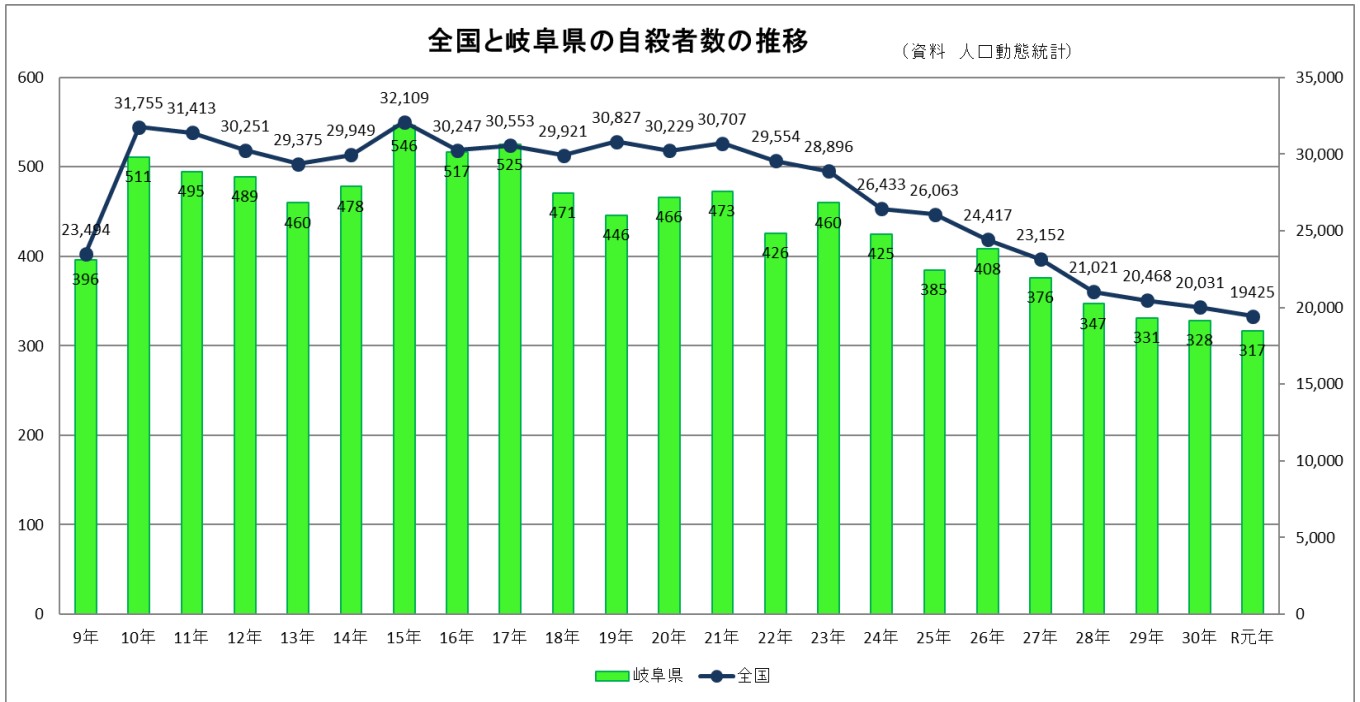
「自殺統計」は、発見地に計上しているのに対して、「人口動態統計」は、住所地に計上しています。

2 統計データからみる岐阜県の自殺の現状

(1) 自殺者数の推移

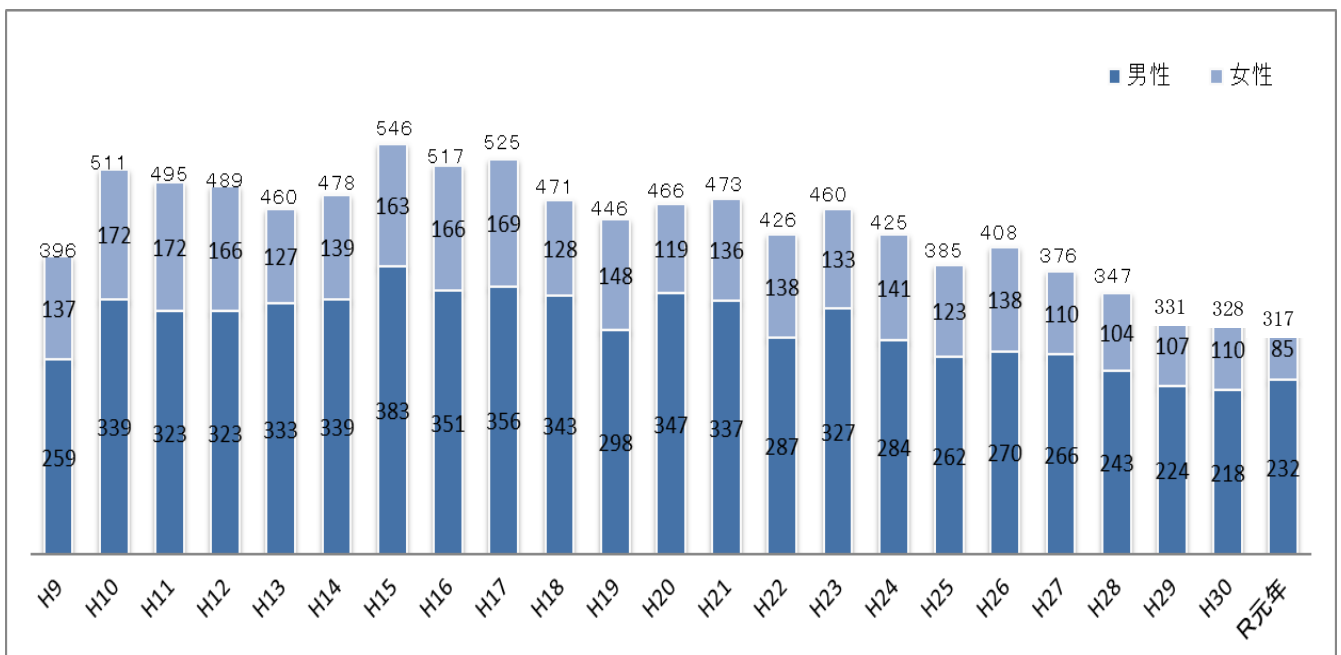
- ・岐阜県の自殺者数は全国の傾向と同様に平成10年に急増しましたが、長期的にみると年々減少傾向にあり、令和元年（2019年）は、317人となりました。
- ・自殺者数の男女別の年次推移は、約7割が男性で推移しています。

(図1) 全国・岐阜県自殺者数の年次推移



(図2) 岐阜県自殺者数の男女別の年次推移

(資料: 人口動態統計)

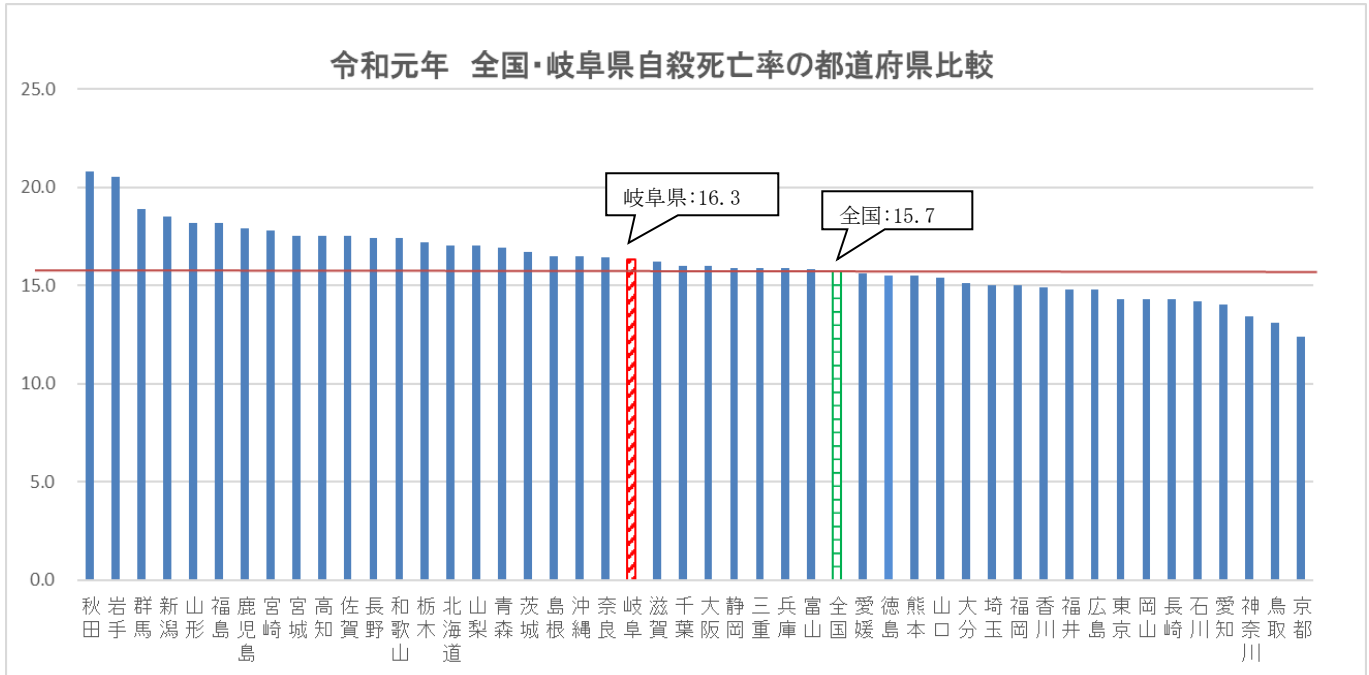


(2) 自殺死亡率の推移

- ・岐阜県の自殺死亡率は16.3で全国15.7を上回っており、高い方からの順位で22位となりました。
- ・年齢階級別の自殺死亡率の年次推移は概ね減少傾向ですが、10代は横ばいが続いており、20代・30代・40代・50代も近年横ばいの傾向にあります。

(図3) 令和元年全国・岐阜県自殺死亡率の比較

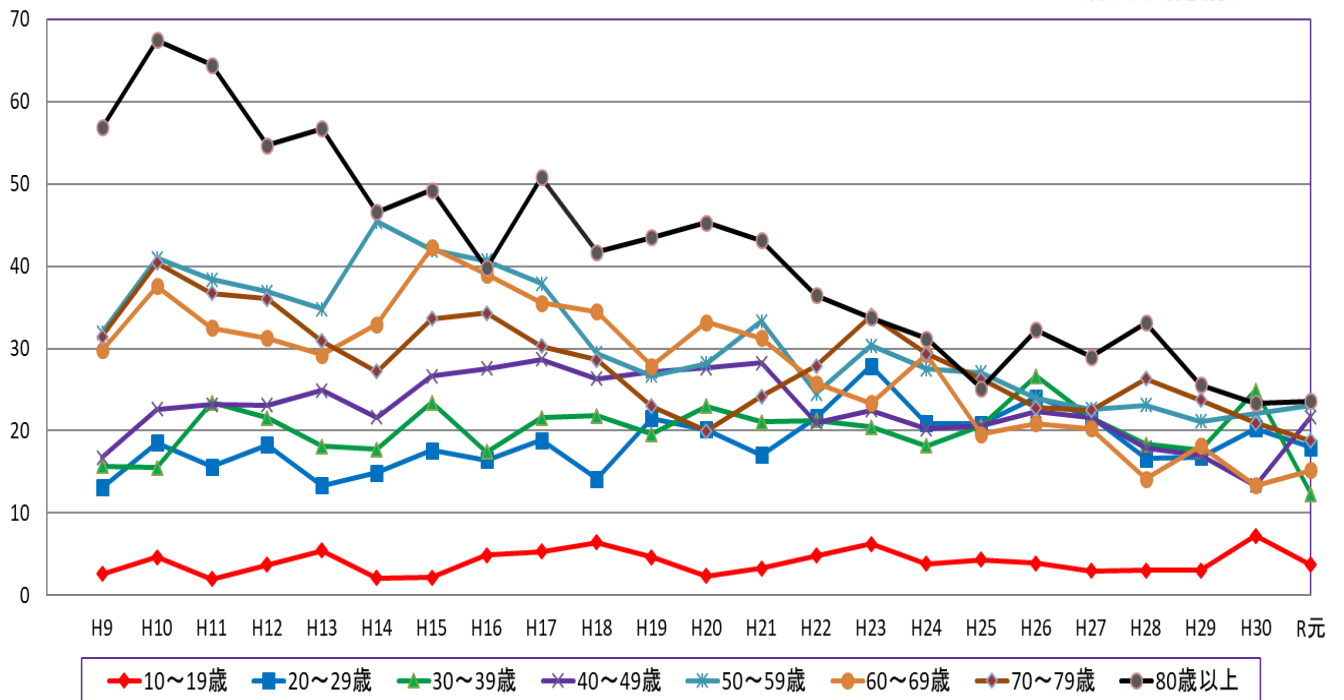
(資料：人口動態統計)



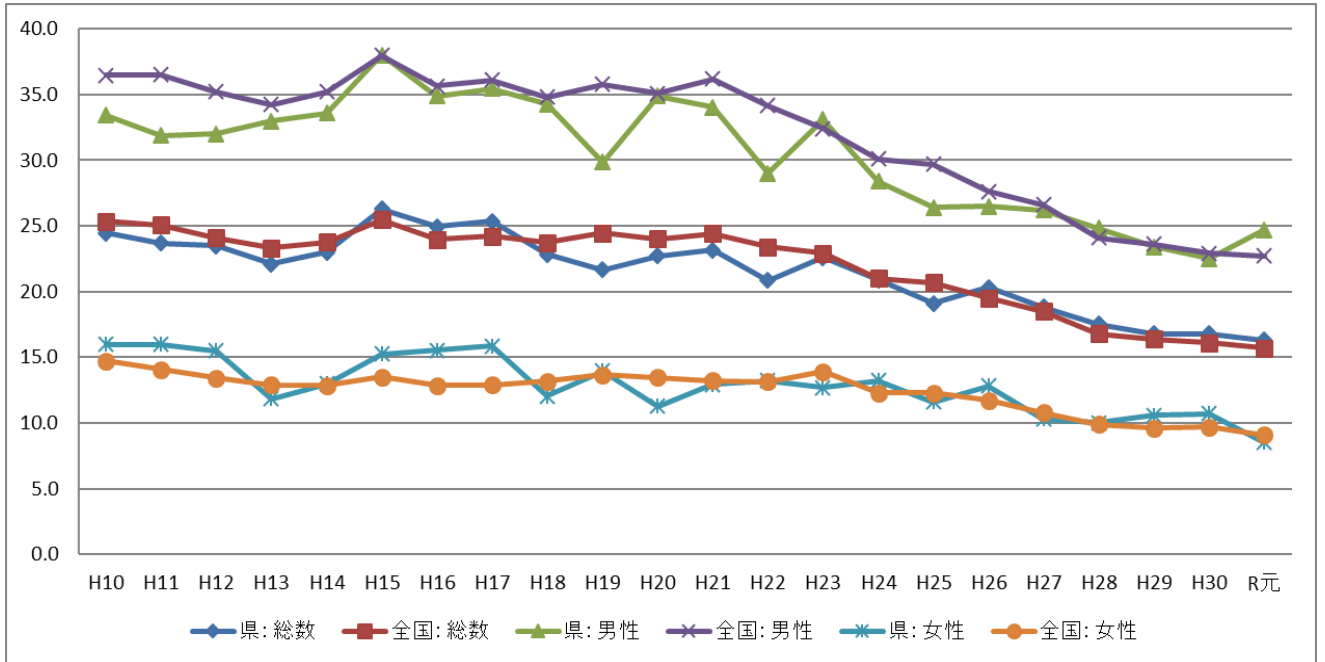
(図4) 岐阜県年齢階級別自殺死亡率の年次推移

岐阜県の年齢階級別自殺死亡率(人口10万対)の推移

(資料：人口動態統計)



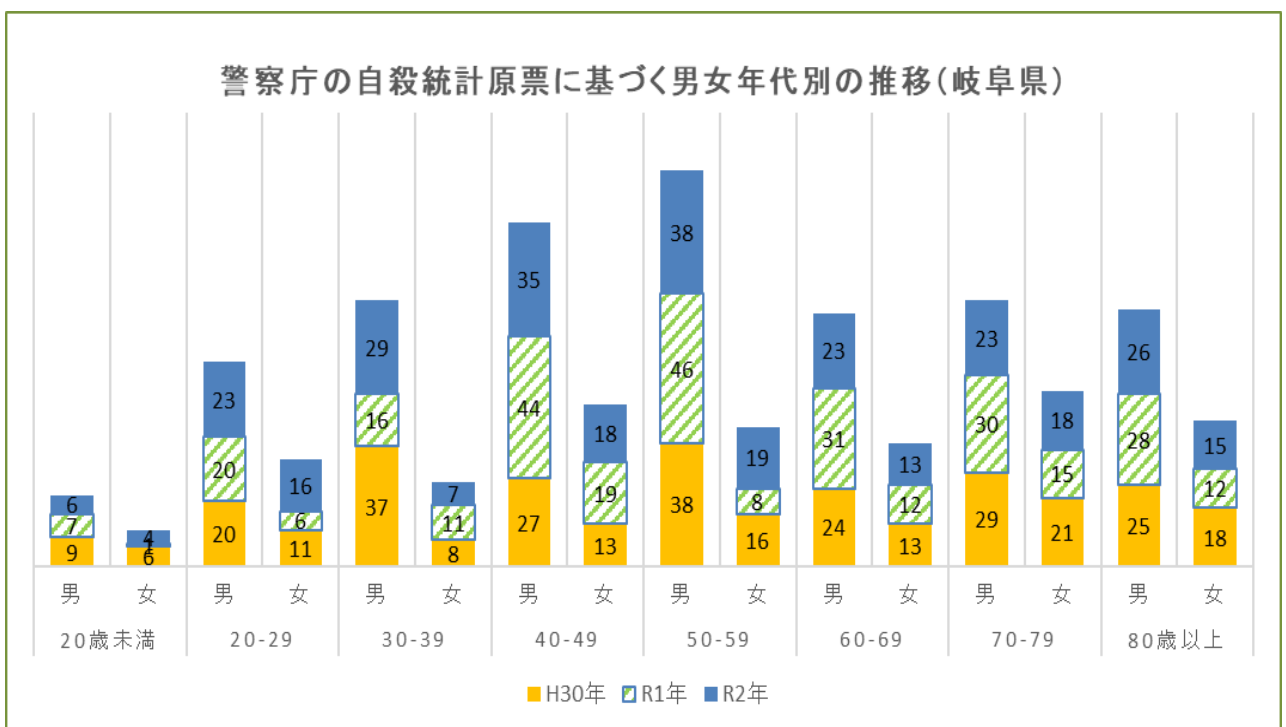
(図5) 岐阜県性別自殺死亡率の年次推移



(自殺者数：人口動態総計、人口：人口推計)

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
県: 総数	19.0	24.5	23.7	23.5	22.1	23.0	26.3	24.9	25.4	22.8	21.7	22.7	23.1	20.8	22.6	20.9	19.1	20.3	18.8	17.5	16.8	16.8	16.3
全国: 総数	18.8	25.4	25.0	24.1	23.3	23.8	25.5	24.0	24.2	23.7	24.4	24.0	24.4	23.4	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8	16.4	16.1	15.7
県: 男性	25.6	33.4	31.9	32.0	33.0	33.6	38.0	34.9	35.5	34.3	29.9	34.9	34.0	29.0	33.1	28.4	26.4	26.5	26.2	24.8	23.4	22.5	24.7
全国: 男性	26.0	36.5	36.5	35.2	34.2	35.2	38.0	35.6	36.1	34.8	35.8	35.1	36.2	34.2	32.4	30.1	29.7	27.6	26.6	24.1	23.6	22.9	22.7
県: 女性	12.8	16.0	16.0	15.5	11.9	13.0	15.2	15.5	15.8	12.0	13.9	11.3	12.9	13.2	12.7	13.2	11.6	12.8	10.3	10.0	10.6	10.7	8.5
全国: 女性	11.9	14.7	14.1	13.4	12.9	12.8	13.5	12.8	12.9	13.2	13.7	13.5	13.2	13.2	13.9	12.3	12.3	11.7	10.8	9.9	9.6	9.7	9.1

(図6) 警察庁の自殺統計原票に基づく男女別・年代別の推移 (岐阜県)



(資料：自殺統計)

(3) 二次医療圏別の自殺死亡率

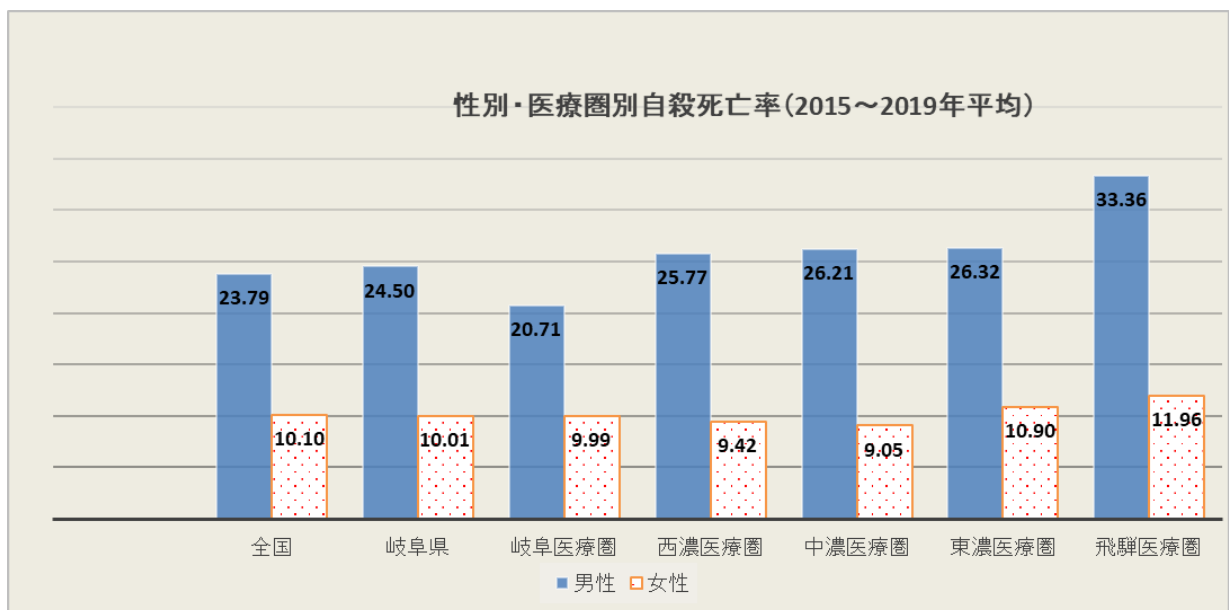
- ・二次医療圏別の自殺死亡率は地域差があり、男性は西濃医療圏・東濃医療圏・飛騨医療圏の働き盛りの年代で高くなっており、20歳未満では、西濃医療圏・東濃医療圏で高くなっています。

女性は、東濃医療圏の20歳未満、岐阜医療圏の20歳未満～40歳代で高く、東濃医療圏・飛騨医療圏で50歳代以上に死亡率が高い年代があります。

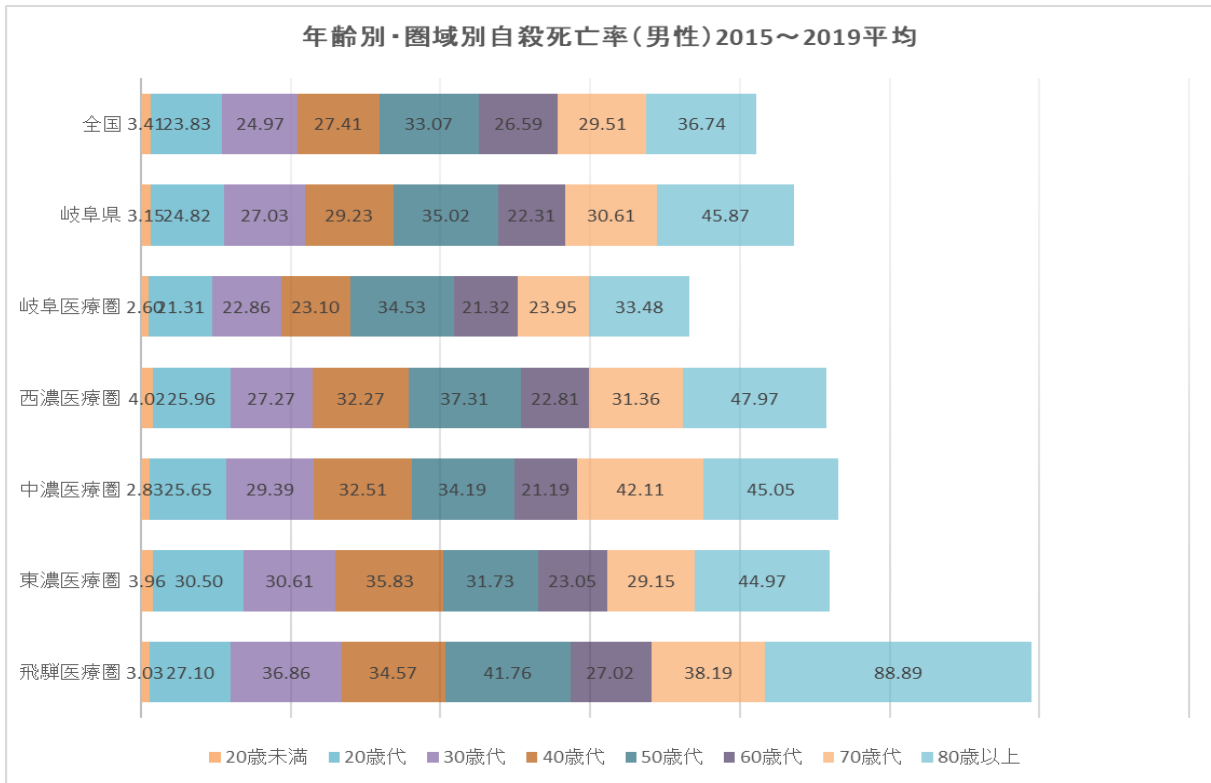
(表1) 性別・年代別・医療圏別自殺死亡率

(資料：地域自殺実態プロファイル 2020)

2015～2019年平均 合計		全国	岐阜県	岐阜医療圏	西濃医療圏	中濃医療圏	東濃医療圏	飛騨医療圏
総数		16.78	17.06	15.19	17.41	17.48	18.39	22.18
		全国	岐阜県	岐阜医療圏	西濃医療圏	中濃医療圏	東濃医療圏	飛騨医療圏
男性		23.79	24.50	20.71	25.77	26.21	26.32	33.36
女性		10.10	10.01	9.99	9.42	9.05	10.90	11.96
		全国	岐阜県	岐阜医療圏	西濃医療圏	中濃医療圏	東濃医療圏	飛騨医療圏
男性	20歳未満	3.41	3.15	2.60	4.02	2.83	3.96	3.03
	20歳代	23.83	24.82	21.31	25.96	25.65	30.50	27.10
	30歳代	24.97	27.03	22.86	27.27	29.39	30.61	36.86
	40歳代	27.41	29.23	23.10	32.27	32.51	35.83	34.57
	50歳代	33.07	35.02	34.53	37.31	34.19	31.73	41.76
	60歳代	26.59	22.31	21.32	22.81	21.19	23.05	27.02
	70歳代	29.51	30.61	23.95	31.36	42.11	29.15	38.19
	80歳以上	36.74	45.87	33.48	47.97	45.05	44.97	88.89
		全国	岐阜県	岐阜医療圏	西濃医療圏	中濃医療圏	東濃医療圏	飛騨医療圏
女性	20歳未満	1.76	1.54	1.64	0.59	0.59	4.22	0.00
	20歳代	9.60	8.60	10.87	8.94	6.66	6.39	3.53
	30歳代	9.27	8.59	10.09	8.73	8.56	4.55	8.29
	40歳代	10.66	9.38	12.05	6.85	7.93	7.11	8.34
	50歳代	12.75	11.77	11.75	10.25	8.51	15.58	15.05
	60歳代	11.45	10.61	10.81	10.54	9.00	12.98	8.53
	70歳代	14.30	16.42	13.36	14.59	18.74	15.93	30.70
	80歳以上	14.36	16.98	13.63	20.49	16.69	19.66	17.70

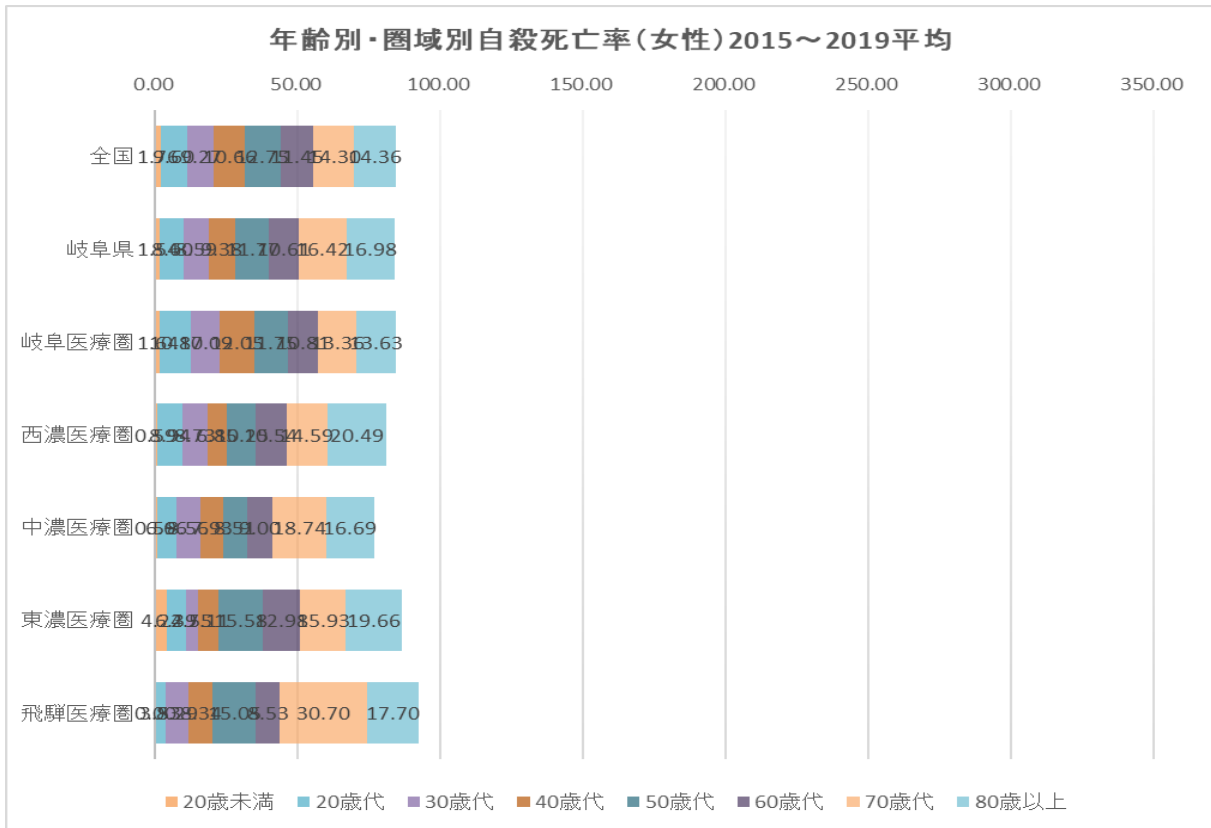


(図7) 【男性】年代別・医療圏域別自殺死亡率 (10万対) (2015年～2019年平均)



(資料:地域自殺実態プロフィール 2020)

(図8) 【女性】年代別・医療圏域別自殺死亡率 (10万対) (2015年～2019年平均)



(資料:地域自殺実態プロフィール 2020)

(4) 年齢階級別の死因順位

- ・年齢階級別死因順位は、総数では15歳～39歳の死因第1位、40歳～54歳の死因第2位が自殺であり、働き盛りの年代の上位を占めています。
- ・男性は、15歳～39歳の死因第1位であり、さらに40歳～59歳までの死因順位の2位から4位にあります。
- ・女性は、15歳～34歳の死因第1位、35歳～39歳・45歳～54歳の第2位、55歳～64歳の第4位～第5位にあります。

(表2) 【総数】令和元年 年齢階級別死因順位

総数	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		総数
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	
総数	悪性新生物	6,171	心疾患(高血圧性を除く)	3,475	老衰	2,414	脳血管疾患	1,751	肺炎	1,556	23,417
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	11	腸管感染症	4	腸管感染症	2	不慮の事故	2	敗血症	1	28
1～4	腸管感染症	1	敗血症	1	悪性新生物	1	悪性新生物	1			8
5～9	不慮の事故	2	悪性新生物	1	インフルエンザ	1					5
10～14	不慮の事故	1									3
15～19	自殺	7	悪性新生物	3	不慮の事故	2	その他の新生物	1	肝疾患	1	18
20～24	自殺	17	不慮の事故	3	悪性新生物	2	心疾患(高血圧性を除く)	1			27
25～29	自殺	15	不慮の事故	7	悪性新生物	6	その他の新生物	1	心疾患(高血圧性を除く)	1	35
30～34	自殺	9	悪性新生物	6	不慮の事故	4	心疾患(高血圧性を除く)	3	脳血管疾患	2	32
35～39	自殺	16	悪性新生物	14	不慮の事故	6	心疾患(高血圧性を除く)	4	脳血管疾患	3	64
40～44	悪性新生物	40	自殺	20	不慮の事故	14	心疾患(高血圧性を除く)	13	脳血管疾患	7	120
45～49	悪性新生物	81	自殺	41	脳血管疾患	26	心疾患(高血圧性を除く)	21	不慮の事故	13	227
50～54	悪性新生物	108	心疾患(高血圧性を除く)	29	自殺	29	脳血管疾患	16	不慮の事故	16	275
55～59	悪性新生物	178	心疾患(高血圧性を除く)	61	脳血管疾患	29	自殺	29	不慮の事故	18	428
60～64	悪性新生物	280	心疾患(高血圧性を除く)	81	脳血管疾患	36	不慮の事故	25	自殺	18	616
65～69	悪性新生物	567	心疾患(高血圧性を除く)	137	脳血管疾患	87	不慮の事故	42	肺炎	24	1,200
70～74	悪性新生物	877	心疾患(高血圧性を除く)	228	脳血管疾患	135	肺炎	70	不慮の事故	63	1,975
75～79	悪性新生物	1,026	心疾患(高血圧性を除く)	320	脳血管疾患	182	肺炎	144	不慮の事故	98	2,680
80～84	悪性新生物	1,097	心疾患(高血圧性を除く)	539	脳血管疾患	307	肺炎	276	老衰	196	3,839
85～89	悪性新生物	1,052	心疾患(高血圧性を除く)	821	老衰	514	肺炎	440	脳血管疾患	421	11,837
90～	老衰	1,627	心疾患(高血圧性を除く)	1,216	悪性新生物	832	肺炎	580	脳血管疾患	500	

(資料：人口動態統計)

(表3) 【男性】令和元年 年齢階級別死因順位

男性	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		総数
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	
総数	悪性新生物	3,554	心疾患(高血圧性を除く)	1,617	肺炎	865	脳血管疾患	843	老衰	710	11,924
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	4	腸管感染症	2	腸管感染症	2	不慮の事故	2	脳血管疾患	1	14
1～4	敗血症	1									3
5～9	不慮の事故	2	悪性新生物	1	インフルエンザ	1					4
10～14	不慮の事故	1									2
15～19	自殺	5	不慮の事故	2	悪性新生物	1	肝疾患	1	先天奇形、変形及び染色体異常	1	13
20～24	自殺	14	悪性新生物	2	不慮の事故	2	心疾患(高血圧性を除く)	1			21
25～29	自殺	12	不慮の事故	5	悪性新生物	2	その他の新生物	1	心疾患(高血圧性を除く)	1	25
30～34	自殺	6	心疾患(高血圧性を除く)	3	不慮の事故	3	悪性新生物	2	脳血管疾患	2	23
35～39	自殺	10	悪性新生物	4	不慮の事故	4	心疾患(高血圧性を除く)	2	脳血管疾患	2	33
40～44	悪性新生物	20	自殺	15	心疾患(高血圧性を除く)	10	不慮の事故	10	脳血管疾患	7	79
45～49	悪性新生物	38	自殺	28	脳血管疾患	17	心疾患(高血圧性を除く)	14	不慮の事故	11	139
50～54	悪性新生物	61	自殺	25	心疾患(高血圧性を除く)	22	不慮の事故	12	脳血管疾患	8	183
55～59	悪性新生物	81	心疾患(高血圧性を除く)	50	脳血管疾患	25	自殺	24	不慮の事故	13	277
60～64	悪性新生物	156	心疾患(高血圧性を除く)	63	脳血管疾患	24	自殺	14	不慮の事故	12	405
65～69	悪性新生物	368	心疾患(高血圧性を除く)	102	脳血管疾患	69	不慮の事故	28	肺炎	18	822
70～74	悪性新生物	569	心疾患(高血圧性を除く)	158	脳血管疾患	88	肺炎	53	不慮の事故	44	1,302
75～79	悪性新生物	643	心疾患(高血圧性を除く)	195	脳血管疾患	120	肺炎	108	不慮の事故	61	1,711
80～84	悪性新生物	666	心疾患(高血圧性を除く)	284	肺炎	180	脳血管疾患	154	不慮の事故	90	2,215
85～89	悪性新生物	577	心疾患(高血圧性を除く)	365	肺炎	251	老衰	190	脳血管疾患	174	4,653
90～	老衰	397	悪性新生物	363	心疾患(高血圧性を除く)	347	肺炎	236	脳血管疾患	153	

(資料：人口動態統計)

(表4) 【女性】令和元年 年齢階級別死因順位

女性	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		総数
	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	死因	死亡数	
総数	悪性新生物	2,617	心疾患(高血圧性を除く)	1,858	老衰	1,704	脳血管疾患	908	肺炎	691	11,493
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	7	围産期に特異的心呼吸器障害及び心血管障害	2	敗血症	1					14
1~4	腸管感染症	1	悪性新生物	1	先天奇形、変形及び染色体異常	1					5
5~9											1
10~14											1
15~19	悪性新生物	2	自殺	2	その他の新生物	1					5
20~24	自殺	3	不慮の事故	1							6
25~29	悪性新生物	4	自殺	3	不慮の事故	2					10
30~34	悪性新生物	4	自殺	3	妊娠、分娩及び産じょく	1	不慮の事故	1			9
35~39	悪性新生物	10	自殺	6	心疾患(高血圧性を除く)	2	不慮の事故	2	その他の新生物	1	31
40~44	悪性新生物	20	自殺	5	不慮の事故	4	心疾患(高血圧性を除く)	3	糖尿病	1	41
45~49	悪性新生物	43	自殺	13	脳血管疾患	9	心疾患(高血圧性を除く)	7	不慮の事故	2	88
50~54	悪性新生物	47	脳血管疾患	8	心疾患(高血圧性を除く)	7	不慮の事故	4	自殺	4	92
55~59	悪性新生物	97	心疾患(高血圧性を除く)	11	不慮の事故	5	自殺	5	脳血管疾患	4	151
60~64	悪性新生物	124	心疾患(高血圧性を除く)	18	不慮の事故	13	脳血管疾患	12	肝疾患	5	211
65~69	悪性新生物	199	心疾患(高血圧性を除く)	35	脳血管疾患	18	不慮の事故	14	大動脈瘤及び解離	7	378
70~74	悪性新生物	308	心疾患(高血圧性を除く)	70	脳血管疾患	47	不慮の事故	19	大動脈瘤及び解離	17	673
75~79	悪性新生物	383	心疾患(高血圧性を除く)	125	脳血管疾患	62	不慮の事故	37	肺炎	36	969
80~84	悪性新生物	431	心疾患(高血圧性を除く)	255	脳血管疾患	153	老衰	115	肺炎	96	1,624
85~89	悪性新生物	475	心疾患(高血圧性を除く)	456	老衰	324	脳血管疾患	247	肺炎	189	
90~	老衰	1,230	心疾患(高血圧性を除く)	869	悪性新生物	469	脳血管疾患	347	肺炎	344	7,184

(資料：人口動態統計)

(5) 自殺者における未遂歴の有無

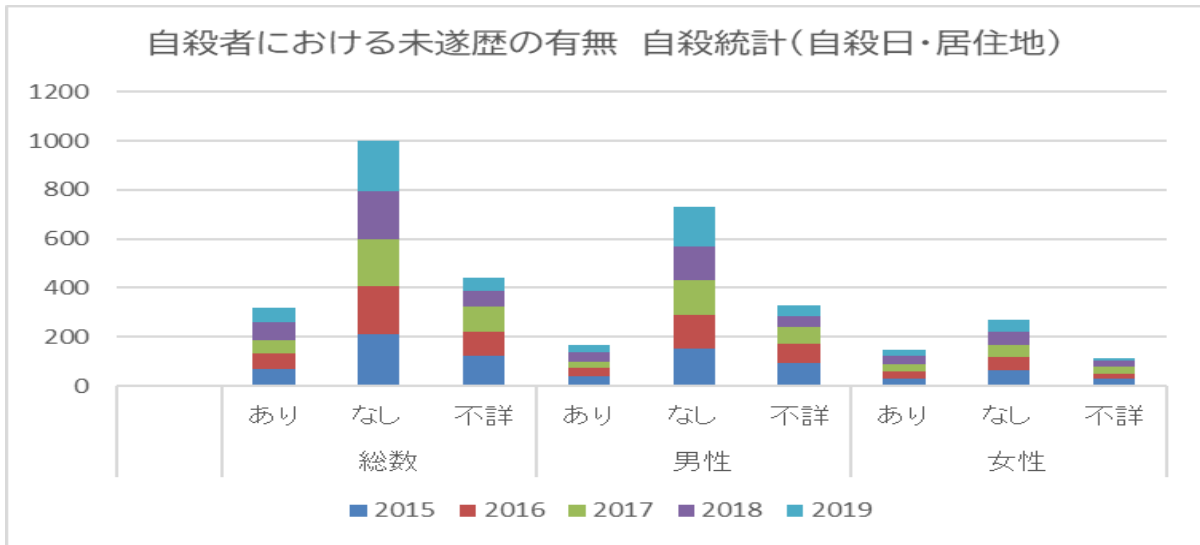
- ・自殺者における未遂歴の有無は、男性女性とも未遂歴なしで亡くなる方が多くなっています。

(表5) 自殺者における未遂歴の有無 (2015年~2019年合計)

	未遂歴	2015	2016	2017	2018	2019	合計
総数	あり	70	62	55	72	58	317
	なし	212	195	193	192	210	1002
	不詳	121	102	99	66	55	443
男性	あり	38	34	26	39	32	169
	なし	150	140	143	138	162	733
	不詳	92	80	69	45	43	329
女性	あり	32	28	29	33	26	148
	なし	62	55	50	54	48	269
	不詳	29	22	30	21	12	114

(資料：地域自殺実態プロフィール 2020)

(図9) 自殺者における未遂歴の有無 (2015年～2019年合計)



(6) 原因・動機別、職業別・同居の有無 自殺者数の状況

- 原因・動機別、職業別・同居の有無別では、「健康問題」が最も多く、次に「経済・生活問題」「家庭問題」「勤務問題」であり全国と同様の傾向があります。
- 職業別では、男性は「被雇用者・勤め人」「年金等」の同居人ありが多く、女性は「年金等」「主婦」「被雇用者・勤め人」の同居人ありが多くなっています。

(表6) 性別・原因動機別の自殺者数 令和元年自殺統計(自殺日・住居地)

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳
男性	29	92	38	29	7	2	15	87
女性	12	52	9	2	1	1	2	28
総数	41	144	47	31	8	3	17	115

(表7) 性別・職業・同居の有無別自殺者数 (2015年～2019年合計) 特別集計(自殺日・居住地)

性別	同居人の有無	有職者		無職等					不詳
		自営業・家族従業者	被雇用者・勤め人	学生	主婦	失業者	年金等	その他無職	
		男	あり	83	342	39	0	27	
男	なし	14	121	7	0	19	84	81	12
女	あり	13	66	14	72	7	141	112	0
女	なし	3	19	1	4	2	45	30	1

(参考資料: 地域自殺実態プロフィール2020)